

「とする」と「にする」の違い

—意味・用法を中心にして—

大塚 望

要 旨

「とする」と「にする」は、共起する格助詞がトかニかという一文字違いでありながら、両者が示す意味や用法また統語構造は、大きく異なっている。これまで両者を比較する研究は見られなかったが、本稿ではこの二つの表現を一緒に考察することによって、その共通点、相違点がさらに明らかにされると考え実例を収集し比較した。共通点は、決定と同定を意味する用法を持つ点。相違点は「とする」が引用、仮定、将前、決定、同定を、「にする」が決定、変化、実現努力、仮想同定の意味を表す点と構文の違いであった。その意味分類の基準として主語の存在と変化前の想定という特徴を引き出した。結局は「する」の持つ形式性がこのような多様な意味用法を示すのである。

キーワード

とする、にする、置き換え、主語の存在、変化前の想定

1. はじめに

動詞「する」は、格助詞トと共に使われ「万一俺たちがつかまった |と／＊に| する」のような文を作る。また、格助詞ニと共に使われる場合には「会社は彼を重役 |＊と／に| する」のような文を作る。さらに、「教諭を停職3か月の懲戒処分 |と／に| した」という文も可能である。このように「する」は、格助詞トあるいはニと共に起する時、トとニが置き換え可能な場合と置き換え不可能な場合がある。たった一つ格助詞が異なるだけで、この二つの表現はどう違ってくるのだろうか。また、動詞「する」はこの二つの表現の違いにどう関わるのだろうか。本稿ではこの二点について考察していく。ただし、形容動詞の連用形や副詞、オノマトペなどが「～」に入るものは扱わない。

2. 先行研究と課題

2.1. 先行研究とその問題点

「とする」と「にする」を同時に考察対象とした論文が管見のところ見られないという事実がある。なぜなのだろうか。「とする」に関する先行研究では考察の観点は大きく二つに分かれ、引用構文としての考察、条件節としての考察という重要な文法事項との関わりから論じられることが主である。そのため、引用と条件という二大観点の前には、類義表現「にする」との比較という観点は微小なものに映ったのかもしれない。しかしながら、「とする」が、なぜ引用と条件という全く別の意味を担うことになるのか、その他にまだどのような意味があるのか、また類義表現の「にする」との比較は「とする」を明らかにするうえでは、見過ごしてはならない点である。

「とする」の先行研究で、本稿と同じ意味・用法の分類について述べた中山(2000)と岩男(2007)について触れたい。ただし、「にする」との比較はいずれも行われていない。

中山(2000)は統語論的考察の結果「N¹⁾ヲNトスル」「Sトスル」の二つの構文があること、テンスの分化の有無によって「取り決め」「対象同定」「発話引用」「仮定的事態設定」の意味に分けられることを述べた。ここでは、問題点を三つあげ課題を明らかにする。一つ目は発話引用の文を「NヲNトスル」型の文に入れていることである。発話引用文は発話された文を補文として引用するものなので「Sトスル」に分類されるべきである。そのうえで、「Sトスル」という同じ構造をとりながら、一方は発話引用となり、一方は仮定的事態設定となるのはなぜなのか考えてみたい。二つ目は、「NヲNトスル」型の文に仮定的事態設定を認めていないことである。例えば「仮にAさんを社長とする」のように、仮定の文は「NヲNトスル」でも可能である。三つ目は、「取り決め」と「対象同定」の差は「テンスの分化の違い」には見られないことである。例えば、「特別減税の額は、平成6年分の所得税額の20%相当額とする(『取り決め』中山例文)」に「テンスの分化はない」としているが、「とした」に置き換えても問題はなくテンスの分化があるということになる。したがって、「取り決め」と「対象同定」にテンスの分化の違いは無い。統語論的な根拠としてあげたテンスの分化が根拠にならないとすれば、これらの意味を分けるのが何なのか考える必要がある。「とする」を引用あるいは仮定のどちらかに限って考察するのではなく、広く全体を捉え、それを統語論的特徴によって差異化しようとしたという点で参考

にすべき新しい観点を持った研究である。これを踏まえて本稿ではさらに詳細に分析を進める。

岩男（2007）は、「とする」を引用構文の観点から考察したのだが、モダリティやアスペクトとの関わり、動作主の有無、「と」と「する」の緊密性、文体差など様々な点から分析している。ただし、その意味分類は「引用」「仮定」「近未来」という三つだけであり、すべてを分類できてはいない。また、分析の一部で疑問に思う点もある。例えば、仮定の文は「テイル形をとる」としているが、「計算を簡単にするために、コインを10回投げて検定を行うものとしている（岩男例文）」は、テイルに置き換えることで元の「仮定」の意味を喪失してしまっている。つまり、テイルは取れないとすべきである。様々な観点をういた分析のやり方は方法として妥当だと考え、特に本稿では動作主の有無について取り上げ、考察を進めたい。

その他、小泉（1989）の中に詳細な意味記述がある。次章で参照する。

以上、「とする」自体の先行研究が少ないだけでなく、それぞれが引用構文、仮定用法など「とする」の一部を取り上げ論じているために、すべての「とする」の意味機能、構文、用法が網羅されたものを見ることができないと言っている。それだけ、「とする」文が大変広範囲に及ぶ特殊な構文であることを物語る証左である。「する」にトという格助詞を一つ付加しただけの表現がどれくらいの表現力を持つのか、どのようにその機能を分化させるものかについてその全体を捉える必要がある。

次に「にする」であるが、逆にこれだけを扱った論文は管見のところ見当たらない。「にする」には取り上げるべき課題がないのだろうか。変化動詞という観点から格助詞のニ・トを論じているのが菊池（2008）である。主に「なる」を取り上げニ・トの違いを述べているが、この結果が「する」にも当てはまるものとは言い難い。例えば「息子は医者 {と／に} になった」は「息子を医者 {*と／に} した」となりトが許容されないからだ。一方で、「先生の判断で森さんは不合格 {と／に} になった」「先生は森さんを不合格 {と／に} した」は、どちらもニ・トが許容されるが、「する」はニとトでは意味が異なり、しかも「とする」は変化を表していない。さらに、「と／にする」は変化だけを表すわけではないため、更なる考察を必要とする。また、その結論部分において、「述語に立つ変化動詞が変化の結果を要求するために、ニであろうとトであろうと、名詞句に変化の結果という意味を持たせることになった」と述べる。しかし、「する」そのものはいうまでもなく変化動詞ではない。変化の結果を要求しないのに変化の意味を持

つとはどういうことなのか、動詞に注目して考えなければならぬだろう。菊池(2008)では、ニとトを変化の結果を表すマーカーとして、その違いについて述べているが、「にする」「とする」の詳細な比較までは行なっておらず、その結果がこちらにまで通用するものとは思えない。変化動詞とニ・トを考えるうえでも、ニ・トを使い変化を表す用法と、ニ・トを使っても変化を表さない用法がどういふものであるか考えることは重要であろう。

2.2. 先行研究—「とする」と「にする」の表す意味

先行研究で明らかにされた「とする」「にする」の表わす意味についてまとめると、以下のようになる。

「とする」：岩男(2007)「引用文」「仮定条件」「近未来」

小泉(1989)「ある事柄を決める」「何かが起こる、または、何かを起こす寸前の状態にある」「あることを仮定する」

中山(2000)「発話引用」「仮定事態の設定」「取り決め」「対象同定」

「にする」：菊池(2008)「変化」

小泉(1989)「ある職業・役割・係などに誰かを従事させる」「ある事柄を決める、または、配慮する」「ある物や人を別の物や人に変える」「実際はそうではないのに、そうであると見なす」

以上のように先行研究では「とする」「にする」は比較されることがなく、異なる表現として捉えられているようである。果たしてそうだろうか。以下両者を比較することの意味について、まず考えてみたい。

2.3. 問題提起—「にする」は変化だけを表すのか、

「とする」は変化を表さないのか

以上見たように「にする」は「変化」を表す表現として、その他の変化動詞と共に論じられることが多い。果たして「にする」は変化だけを表すのか、例文を元に考えてみたい。

(1) 先生は森さんを不合格にした。

確かに「変化」だと解釈することも可能だが、一方で「取り決め(決定)」だと解釈することも可能である。そして、この文はトに置き換えが可能である。

(2) 先生は森さんを不合格とした。

これは先行研究で「取り決め(決定)」と言われる例であるが「判断」の意味もある。しかし、さすがに変化の意味を読み取ることは難しい。

それでは、次に変化の意味を明らかにするために、変化前と変化後を示す語を加えてみる。

(1) '先生は一変、森さんを合格から不合格にした。

(2) '先生は一変、森さんを合格から不合格とした。

(1)'は変化の意味が決定的になり、(2)'は決定だけでなく変化の意味も出てくる。さらに、次の例を見てみる。

(3) タイガースは8対4と点差を4点にした。(菊地 2008 例文)

(4) タイガースは8対4と点差を4点とした。

(4)は「取り決め」でも「対象同定」でもなく寧ろ(3)と同様「変化」とも言える。

このように「にする」は変化、「とする」は決定という説明がそれほど絶対的なものではなく、両者は時にその意味において重複する部分(同義)を持つと言ってもいい。したがって、「とする」と「にする」は別に扱っていいほど別の物でもなく、共通の意味を有していると断定できるほど単純に似ているわけでもないことがわかる。上記のようにその線引きは明確なものではないが、その点こそが、それぞれ別に論じていても見えてこない部分を明らかにしてくれるのではないかと考え、両者の比較を試みる。

3. 「とする」単独の意味・用法

「とする」だけに見られる意味・用法についてまとめる。先行研究では「引用」「仮定」「決定」がその表す意味とされた。構文的に「とする」にしかないのは、「Sモノトする」「Sトする」「{NガNヲ/Nガ} V(ヨ)ウトする」の三つである。「にする」との置き換えの可否について見ながら、意味をまとめていく。

3.1. 「にする」との置き換え不可

「とする」の中で「にする」と置き換えることができないものを確認し、意味を分類していく。つまり、「とする」だけに見られる意味・用法である。

i. 引用

(5) 検察側は「犯行は計画的、常習的、組織的で、極めて巧妙かつ悪質」と主張。被害は未遂1件を含む23件で計1049万円{と/*に}し、(検察側は)²⁾「長年組織犯罪を行い、規範意識が鈍磨し、再犯の恐れがある」{と/*に}した。組織内の役割については、(検察側は)大下

被告は「社員を指揮しており、責任は重大」|と/*に| した一方、岩間被告は「重要な役割を担ったが、トップの天下被告に従わざるを得なかった」と指摘した。2012.3.15³⁾

「Sトする」の統語構造を持ち、発話や判断の引用を示している。引用されるものは「」で閉じられることもある。また、「した」のように過去形で用いられることが多い。

ii. 仮定

- (6) もし雨がまだ降り続く |と/*に| すると、川の堤防が危ない。(小泉 1989 例文)
- (7) ここにひとりの病人がいる |と/*に| する。(塩狩峠)
- (8) 万一、俺たちがつかまった |と/*に| する。(驢馬)
- (9) 仮に誰も死なないもの |と/*に| する。(人生論ノート)
- (10) アキレスがA点、亀がB点にいて、アキレスが亀を追いかけるもの |と/*に| する。(若き数学者)

「Sトする」「Sモノトする」の統語構造を持ち、仮定を表す。従属節で使われる以外(主文末)は現在形であること、主語が存在しないことがその特徴である。一方、同じ「Sトする」の構造を持つ「引用」では、主語が存在する(潜在的にでも)⁴⁾。また、「仮にAさんを社長とする」も可能であり「NヲNとする」もある。

iii. 将前

- (11) 日が暮れよう |と/*に| している。(小泉 1989 例文)
- (12) 猫が屋根から降りよう |と/*に| する。(同例)
- (13) 弘は大学を受けよう |と/*に| してやめた。(同例)
- (14) 双子のお星様はどこ迄でも一緒に落ちよう |と/*に| したのです。
(双子の星)

「何かが起こる、または、何かを起こす手前の状態にある(小泉 1989)」とされるものである。簡潔に「将前」とする。「|NがNヲ/Nガ| V(ヨ)ウトする」の構造を持つ。ただし、動詞は未然形で意向を表す助動詞「(ヨ)ウ」と結合したものである。

iv. 決定

(15) 第8条で「大学及び高等専門学校は、発達障害者の障害の状態に応じ、適切な教育上の配慮をするもの {と／*に} する」としている。
2010.10.22

(16) 昨年4月施行の愛知県暴力団排除条例（暴排条例）でも「暴力団員が組から離脱することを促進し、社会復帰の支援に努めるもの {と／*に} する」と規定。2012.4.1

「Sモノトする」の統語構造を持ち「決定」を表す。「にする」にも決定の用法が見られたが、「NガNヲNニする」で構造が異なる。同じ構造を持つ「仮定」との違いは、文脈によるものと考えられる。例えば、「裁判所は彼らが奉仕活動に従事するものとした」は決定の意。「彼らが奉仕活動に従事するものとする」は仮定と決定の解釈が可能。仮定は主文末では現在形のみで主語の想定ができないが、決定は時制の制限はなく主語の想定は可能である。

v. 同定

(17) その年の六月下旬、馬場熊男を長 {と／*に} する十一名の技師・工員たちが、長崎から姿を消していた。（戦艦武蔵）

(18) 有馬馨大佐を艦装員長 {と／*に} する艦装員たち（戦艦武蔵）

(19) トウモロコシを原料 {と／*に} するバイオ燃料の使用義務を一時的に停止 2012.8.20

(20) 県は19日、この弁当を原因 {と／*に} する食中毒と断定した。
2012.8.20

「NヲNトするN」という連体修飾節を作り主語が存在しない。「この弁当を原因とする食中毒」は「*食中毒がこの弁当を原因とする」でもなく、「*県がこの弁当を原因とする食中毒」でもない。敢えて作るなら「県がこの弁当を食中毒の原因とする」である。いわば「外の関係」を示す連体修飾節である。このように主語が無い場合には、ヲ格名詞＝ト格名詞であることを示すに留まり、誰がそう見なしたかに焦点が当たらなくなる。つまり、このような同定は「AがBをCと同じだと見なす」という意味であるが、主語が無いとはその見なした誰かが問題にならないために、結果的にあるものがあるものと同じであるということだけが焦点化されているのである。この他に「NガNヲNトする」の構造もある。

vi. 決定結果

「NガSモノトする」「NガSコトトする」のNがない文は、決定ではなく、決定結果を表す。

(21) 第8条で「大学及び高等専門学校は、発達障害者の障害の状態に応じ、適切な教育上の配慮をするもの{|と/*に|}する」としている。

2010.10.22

(22) 指針では、アプリが利用者の情報を取得する場合、情報の内容や目的を明記し、利用者の同意を得ること{|と/*に|}した。2012.8.15

これらは決定の主体である主語がなく、決定の結果そうなったことを示していると考えられる。

以上の考察結果を表1としてまとめておく。

表1. 「とする」単独の意味・用法—「にする」との置き換え不可

意味	文型	主語	例文
引用	NガSトする	主語あり	「長年組織犯罪を行い、規範意識が鈍磨し、再犯の恐れがある」{ と/*に }した。
仮定	Sトする、Sモノトする NヲNとする	主語なし	万一、俺たちがつかまった{ と/*に }する。
将前	{NガNヲ/Nガ } V (ヲ)ウトする	主語あり	日が暮れよう{ と/*に }している。
決定	NガSモノトする	主語あり	大学及び高等専門学校は、発達障害者の障害の状態に応じ、適切な教育上の配慮をするもの{ と/*に }する。
決定	[NヲNトする] N NガNヲNトする	主語なし	有馬馨大佐を機装員長{ と/*に }する機装員たち
決定結果	Sモノトする Sコトトする	主語なし	大学及び高等専門学校は、発達障害者の障害の状態に応じ、適切な教育上の配慮をするもの{ と/*に }する。

3.2. 「対象同定」と「取り決め」に違いはあるのか？

中山(2000)は、「同社は、一九九〇年十月、一人当たり年間休日数を百二十日間とした(中山例文)」を「対象同定」、「オリンピック委員会からの報奨金は非課税とする(同)」を「取り決め」としている。しかし、どちらも筆者には「取り決め」のように感じられる。もう少しこの点を考察してみたい。

- (23) まず櫛の二間柄のさきに、口輪をはめ、五寸釘を差しこんで穂先とする。それが庄九郎の稽古槍である。(国盗り物語)

これは庄九郎の稽古槍の作り方が述べられ、どんなものが穂先かと言えば「櫛の二間柄のさきに、口輪をはめ、五寸釘を差しこんだもの」であり、それを「穂先」と見なすということなので、対象同定の意味を示す。これを取り決めとは言えない。同定の文は主語の存在が明示されていない。

- (24) 越前朝倉、尾張織田、美濃揖斐の連合軍がそれぞれ連絡しあって、美濃討入りの日を天文十三年八月十五日前後とした。(国盗り物語)

これは「美濃討入りの日」を「天文十三年八月十五日前後」と決定したことを意味する。討ち入りの日が八月十五日前後と見なすという対象同定の意味ではない。決定の主体である主語（連合軍）が明示されている。

- (25) 「待て。今の命中弾は、三分の一の三発とする」(山本五十六)

命中弾を三発と見なすのか、三発だと決めたのか、読み方によってどちらにも動く。ただし、決定の主体を積極的に読み取れば「私」がそう決めたと宣言した文となり、主語の存在を強く読まない場合にはそう見るという意味に傾く。同じ統語構造「NガNヲNトする」の場合、主語の存在が両者を分かち基準になると考えられる。

4. 「にする」単独の意味・用法

「にする」だけに見られる独自の意味や用法についてまとめる。小泉(1989)で「にする」の意味を四つに分類している。「ある職業・役割・係などに誰かを従事させる」「ある事柄を決める、または、配慮する」「ある物や人を別の物や人に変える」「実際はそうではないのに、そうであると見なす」である。ただし、「とする」との置き換えを考えると、置き換えられるものもある(ただし意味は変化する)。その中で、構造的に「にする」にしかないものが「NガS[V過去形]コトニする」「NガNヲNトイウコトニする」「NガNヲNノヨウニする」「NガS[V現在形]ヨウニする」であり、その他は同じ「NガNヲNニする」である。「とする」との置き換えの可否について見ながら、その意味をまとめていく。

4.1. 「とする」との置き換え不可

「にする」の中で「とする」と置き換えることができないものを確認し、意味を分類していく。つまり、「にする」だけに見られる意味・用法である。

i. 決定

(26) 彼らは昼食をカレーライス {に⁵⁾ / *と} した。(小泉 1989 例文)

(27) 何にする? ぼくはうなぎ {に / *と} するよ。

(28) いつにする? それじゃ、3月のはじめ {に / *と} しようか。

これは「ある事柄を決める (小泉 1989)」と説明されるだが、簡潔に「決定」と名付ける。「彼らはカレーライスにした」「昼食はカレーライスにした」も可。「N ガ N ヲ N ニする」の統語構造を持つ。さらに以下のように「N ガ N ヲ N トイウコトニする」の統語構造を持つものもある。

(29) ヘビでもモズでもとにかくネズミをとる動物は全部禁猟ということ {に / *と} して、密猟した奴は嚴重処分 (パニック)

ii. 変化

(30) 会社は彼を重役 {に / *と} した。(小泉 1989 例文)

(31) 娘を教師 {に / *と} する。(同例)

これは「ある職業・役割・係などに誰かを従事させる (小泉 1989)」と説明されるものだが、「従事させる」の意味は「する」には強すぎる。どちらも簡潔に「変化」でいいのではないか。つまり「会社が彼を重役でない状態から重役の状態へ変えた」「親が娘を教師にならせた」という意味である。そして、「ある物や人を別の物や人に変える (同)」という説明もこの「変化」の中に入れることができる。

(32) 子供たちは板切れを船 {に / *と} して遊んだ。(小泉 1989 例文)

(33) この工場はパルプを紙 {に / *と} する。(同例)

(34) 鯛を刺身 {に / *と} する。(同例)

すべてが「別の物や人に変える」という意味かという、(32) は別の物にはなっていない。ただ、板切れが船という役割に変わっただけである。そう考えれば(30)と同様、役割・立場・用途の変化である。それと同時に「パルプを紙にする」「水を湯にする」「マジシャンが白布を鳩にする」のように物質的・物的に変化が起こるものも含まれる。いずれにせよ「変化」としてまとめる。

(35) 加藤は、製図用のクロスをひと引きで真二つ {に / *と} するように、その烏口を鋭く磨き上げようと思った。(孤高の人)

(36) 近いうちに、上級生の数も半分 {に / *と} するという噂もあるんです。(孤高の人)

(37) ゴーシュも口をりんと結んで眼を皿のよう {に / *と} して楽譜を見つめながらもう一心に弾いています。(セロ弾きのゴーシュ)

「NガNヲNニする」と「NガNヲNノヨウニする」の統語構造を持つ。

iii. 実現努力

(38) 必ず連絡を取るよう |に／*と| する。(小泉 1989 例文)

(39) 私たちの行き先が恵子にすぐわかるよう |に／*と| する。(同例)

これらを「配慮する (小泉 1989)」としているが、配慮の意味は広い。そこで、これらが事態実現のために努めることを表しているのので「実現努力」と分類したい。益岡・田窪 (1992) で「実現への努力や事態の維持の努力を表す (p93)」と指摘されている。「連絡を取る」ことが実現されるように努めることを意味し、それがどの程度の実現度かは示されていない。ただ、その実現のために何等かの行為を行うことを意味している。

(40) すぐ見積りをとるよう |に／*と| してくれ給え。(パニック)

(41) 君の席を北村と顔を合わせないようなところ取るよう |に／*と| するから出ろよ。(孤高の人)

ただし、同じ「NガS [V 現在形] ヨウニする」でも以下の例は実現努力ではなく、その行為の様子を表すものである。

(42) ボーイ長がまた床をすべるようにしてやってきた。(ブンとファン)

「*Nガ [ボーイ長が床を滑る] ヨウニする」ではなく、実現させるように努力した主体Nが無い。一見すると同じ構造に見えるが、このような違いがある。

iv. 仮想同定

(43) 私たちはそのいたずらを健二がやったこと |に／*と| した。(小泉 1989 例文)

(44) 警察はその事件はすでに解決したこと |に／*と| している。(同例)

(45) 君たちの言うことを信じて、今回は私が間違っていたこと |に／*と| する。(若き数学者)

「実際はそうではないのに、そうであると見なす (小泉 1989)」と説明されるもので、簡潔に「仮想同定」とする。つまり、仮にあるものをあるものと見なすという意味で、「いたずら=健二がやった」と考えることを意味している。「NガS [V 過去形] コトニする」の統語構造を持つ。

以上の考察結果を表2としてまとめておく。

表2. 「にする」単独の意味・用法—「とする」との置き換え不可

意味	文型	主語	例文
決定	NガNヲNにする NガNヲNトイウコトニ する	主語あり	彼らは昼食をカレーライス に/* と した。ネズミをとる動物は全部禁 猟ということ に/*と して。
変化	NガNヲNにする NガNヲNノヨウにする	主語あり	会社は彼を重役 に/*と した。 ゴーシュも口をりんと結んで眼を皿の よう に/*と して楽譜を見つめな がらもう一心に弾いています。
実現 努力	NガS [V 現在形] ヨウ にする	主語あり	必ず連絡を取るよう に/*と する。
仮想 同定	NガS [V 過去形] コト にする	主語あり	私たちはそのいたずらを健二がやった こと に/*と した。

5. 「とする」「にする」重複の意味・用法

「とする」と「にする」どちらでの言い方も可能な例を見ていく。まず、両者が置き換え可能か、次に意味がほぼ同じと考えていいかの二点を確認しながら、両者の重なるの部分について考察する。置き換え可能な文型は「NガNヲN |ト/ニ| する」「NガSコト |ト/ニ| する」の二つである。

5.1. 置き換え可

i. 決定

動作主の意志が表に現れるような文脈の場合、変化よりも決定の意味が強くなる。「にする」は、このように動作主の意志性が強く表れると「決定」、そうでないと「変化」の意味となる。つまり誰かによる決定的な変化は「決定」という形に解釈されるからである。「とする」は「決定」の意味のみを示す。

(46) 耳の会は3月3日を耳の日 |と/に| した。

このように、決定の主体が存在すること（耳の会）、変化前が想定されにくいことが要因となって「決定」の意味の解釈が出ると考えられる。

(47) 学校が「母の日」のプレゼントをカーネーション |と/に| すると言
い出した。

こちらも同様である。「にする」に変化の解釈がされにくいのは、変化前の状態が想定できないためである。例えば「バラからカーネーションにすると言出し

た」と変えると、この文の解釈は「変化」に変わる。また、その決定した主体が「学校」のような公的な機関であれば、「とする」との共起がなじみやすくなる。これを「兄」に置き換えると「*兄がプレゼントをカーネーションとすると言い出した」のように一転、非文となる。決定の主体として公的な要素を求める点は、「とする」の持つ特徴でもある。

(48) プレゼントはカーネーション {と／に} する。

この例の「にする」は私的な決定、「とする」は公的な決定で自分でない誰かが勝手に決めたことというニュアンスがある。「とする」には常にこのような文体的堅さというものがつきまとう。以下は実例である。

(49) 地元のこの図書館に一部、寄贈すること {に／と} している（ブンとフン）

(50) クサキサンスケ氏は、数えたというしるしに、毛の一本一本にリボンをつけること {に／と} した。（ブンとフン）

(51) 同省は、特に発生量が多く、保管場所の確保が難しい4県では国有地を活用すること {と／に} した。2012.8.21

(52) 特例法案は、被災程度が激しく、予定通り選挙を執行できない自治体に限り、投票日を2—6か月間延期できるとする内容。新たな投票日は自治体の被災程度に応じて別途、政令で定めること {と／に} する。2011.3.15

(53) 県教委は14日、胎内市でひき逃げ事故を起こし、道路交通法違反（ひき逃げ）などの疑いで逮捕された中学校の男性教諭（49）を停職3か月の懲戒処分 {と／に} した。2012.3.15

以上、両者に共通する意味「決定」を示す文は、「NガNヲN {ト／ニ} する」「NガSコト {ト／ニ} する」の二つである。

次の例は「NガNヲNとする」のヲ格名詞句を主題化した例である。

(54) 警視庁の命令により、青山の分院は患者の転院が済み次第閉鎖休院 {と／に} する。検家の人びと

決定の主体である主語が曖昧で、実際に「閉鎖休院」の事態を引き起こしたものが、警視庁なのか、警視庁の命令を受けた別の団体なのかまでは判然としない。提題によって「青山の分院は」と取り上げ、結果的に閉鎖休院となったことを述べている。主語が特定しづらいということは、主語が不要であることを意味し、「NヲV」という他動詞構造を取りながら他動性のない動詞だと言えよう。さらに、もう一歩突き詰めるなら「NガNである」と同様の意味を示す状態性を示

す動詞になっている。「(A ガ) B ヲ C トする」の構造を持つ文は、その根底に「B = C」という構図が見られるということである。つまり、「する」は「B = C」であることを決定づける、判断する、あるいは単にそうであることを結ぶ述語である。したがって、決定づける、判断するにはその動作主 A が必要であり、単にそうである状態が現出したことを述べるだけなら A が不要となる。これを決定結果と言ってもいいだろう。

ii. 同定

「N ガ N ヲ N ト／ニ する」の統語構造を持つ。

- (55) それは人間の存在が虚無を条件 {と／に} するのみでなく虚無と混合されていることを意味している。(人生論ノート)
- (56) その痣は自分が付けたものだ、という事実を、伊木は心の支え {と／に} した。(砂の上の植物群)
- (57) 「風疹 {と／に} した理由は?」「熱がでて鼻水と眼脂が多かったのです」「口の内の粘膜は?」「……………」「診なかったのですね。それでは風疹と断定できません、一番肝腎な個所を見逃しています」(花埋み)
- (58) (私は) 糠をまるめてふかしたのを弁当 {と／に} し、車中、きぬにもたれかかって居眠りする大男を肘でついて、逆に頭をこづかれ、(焼土層)
- (59) 宮村の頭を北に向け、ピッケルをその枕元に立てて置いた。遺体発見の目じるし {に／と} するためだった。(孤高の人)

以上の考察結果を表3としてまとめておく。

表3. 「と／にする」重複の意味・用法—置き換え可

意味	文型	主語	例文
決定	N ガ N ヲ N ト／ニする N ガ S コトト／ニする	主語あり	男性教諭(49)を停職3か月の懲戒処分 {と／に} した。同省は国有地を活用すること {と／に} した。
同定	N ガ N ヲ N ト／ニする	主語あり	人間の存在が虚無を条件 {と／に} する

5.2. 「決定」と「同定」の違い

3.2で「と／にする」における「決定」と「同定」の違いについて述べたが、ここでは、「と／にする」「に／にする」どちらにも出現する二つの意味が何を条件に発現す

るのか考えてみたい。統語構造という点では、「N (A) ガ N (B) ヲ N (C) ト / 二する」で同じであり、そして、その基礎として「B = C」であることも同じである。そのイコールの判断の仕方が「決定」か「同定」かの違いとなって現れると考えられる。

まず、「決定」であるためには既に述べたとおり、決定を下す動作主の存在が必要であり、「とする」文はその決定主体が公的機関である例が多く見られる。「同定」は、決定ほど強い認定ではなくただ単にそう見なす、見るというレベルのため、公的な機関よりは個人的・私的なものが主語となるものが多い。また、同様に B と C の組み合わせも「ピッケル = 目じるし」「糠のふかしたもの = 弁当」のように、決定の意味はない。「決定」では「3月3日 = 耳の日」「男性教諭 = 懲戒処分」で単に見なすだけでなく、B が C と決定的に結びついたことを意味する。

以上のように、「決定」か「同定」は、主語の存在、その主体の特徴、B と C の結び付きによって決まる。このような理由のため同じ統語構造を持ちながら、置き換えができない例が見られることになる。以下がそれである。決定主体は「私」「俊介」「彼」など個別で私的であり、いずれも「とする」を許容する文体的特徴がない。

- (60) そういうあれこれが面倒になって、私は大学を退職すること {に／*と} した。(IQ84)
- (61) 「一体どんな薬です？」と素直に聞き返してみることに {に／*と} した。
(のんきな患者)
- (62) 俊介は方向を変えて課長の説を歓迎すること {に／*と} した。(パニック)
- (63) 彼は雑木林などのかげに携帯の一人用のテントを張って野宿すること {に／*と} していた。(パニック)

「同定」の例もある。

- (64) あんなあ、(僕達は) ここお家 {に／*と} しようか。(火垂るの墓)

5.3. 置き換え可能だが、意味が変わるもの

「にする」と「とする」が置き換え可能だが、意味が異なってしまうものを取りあげる。つまり、統語的には同じ構造 (N ガ N ヲ N ト / 二する) を共有するが、意味がずれる用法である。一つは、「とする」が決定を「にする」が変化を表すもの、もう一つが「とする」が同定を「にする」が変化を表すもの、さらに「とする」が仮定を「にする」が変化を表すものである。

i. 「とする」決定, 「にする」変化

- (65) 武雄市は27日, 指定管理者に来年4月から委託する市図書館について, 改修工事に伴って11月～来年3月末の5か月間を休館 {に/と} すると発表した。2012.8.28

「武雄市」が「する」の主語であり, その意味的特徴は「市」という公的な立場である。「とする」文はこのような主語の特徴と共に, 解釈の可能性として考えられる「変化」の用法が他の構文でも存在しない。以上の点から「決定」を意味するものと捉えられる。そして, 「にする」文は, 変化前である「開館」していた状況を想定でき「開館⇒休館」という事態に変化したという解釈が自然である。どちらも同じ統語構造であり, それぞれに主語の明示, 主語の公的性質, 変化前の想定が特徴として抽出できるが, やはり別の意味が出ると考えられるものである。以下はいずれもこのような例である。

- (66) 今後諸君は海軍技術員嘱託として, 所長は, 勅任官待遇, 技師は, 奏任官待遇 {と/に} する。(戦艦武蔵)
- (67) 防火用に外壁をぬらせ, わらぶきを廃止し, できるだけ瓦屋根 {と/に} した。(国盗り物語)
- (68) 家は仕舞屋風の小さな家で, 玄関六畳を患者控室 {と/に} し, 次の八畳間を診察室 {と/に} した。(花埋み)
- (69) 同社は, 来夏のセールでは, 開始時期をさらに後ろにずらして8月1日頃 {と/に} する方針だ。2012.8.22
- (70) 県警は17日, 刑事課長を27日付で同署付 {と/に} する人事異動を発表している。2012.8.18
- (71) やりくりしてトレーナーを常時7人体制 {に/と} するなど, 選手の支援に力を入れてきた。2012.8.28

ii. 「とする」同定, 「にする」変化

- (72) 光秀は, 百姓家に行ってわらを買って来, それを一隅に積みあげて寝具 {と/に} した。(国盗り物語)
- (73) 花子をリーダー {と/に} したクラスメイトを憎んだ。
- (74) 警察は佐藤さんを犯人 {と/に} した。

(72) 「にする」は「わら⇒寝具」と変化させた, 「とする」は「わら=寝具」と見なした, と解釈される。(73) 「花子⇒リーダー」の変化を引き起こしたのは「クラスメイト」という意味を持つのは「にする」であり, 「花子=リーダー」であ

る集団の「クラスメイト」という意味を持つのは「とする」である。(74)「佐藤⇒犯人」と変化させ、そう仕立てるという意味が感じられるのが「にする」であり、「佐藤＝犯人」と判断したことを意味しているのは「とする」である。それぞれの格助詞ニとトがこのような違いを引き起こしている。

iii. 「とする」仮定, 「にする」変化

(75) たとえば, 佐藤を犯人 {と/に} する。

「たとえば」が挿入されているが, 仮定としての前提の働くところが両者では異なる。「とする」文では, 「佐藤＝犯人」つまり, 佐藤が犯人かどうかはわからないが, 仮に今そうであると「たとえば」仮定するということである。「にする」文では, 「佐藤⇒犯人」つまり, 佐藤を犯人でもないのに犯人に仕立てることを意味し, その変化全体が「たとえば」という例示である。

「NガNヲNト/ニする」においては, 「にする」の基本的な意味は「変化」だと言ふことができよう。「とする」はどれか一つが突出しているのではなく, 「決定」「同定」「仮定」の意味が文脈によって変化すると考えることができそうだ。

以上の考察結果を表4としてまとめておく。

表4. 構文的には置き換え可能だが, 意味が異なるもの

	意味	主語	例文
ト/ニする	決定/変化	主語あり	トレーナーを常時7人体制 {に/と} する。
ト/ニする	同定/変化	主語あり	警察は佐藤さんを犯人 {に/と} した。
ト/ニする	仮定/変化	主語あり	たとえば, 佐藤を犯人 {に/と} する。

6. おわりに

以上の「AガBヲCトする」と「AガBヲCニする」には, 「変化」「同定」「決定」「仮定」という意味が見られるが, それらの根本にある共通の意味は, 「B=C」として認める(事実か非現実かは関係なく)ということになる。その認め方が, 一つは変化前の想定があれば変化前と変化後との対照によって「B⇒C」という点が強調される。また, BとCを同じだと単に見るのか, そう決めるのか(顕著なのは公的機関が主語の場合), あるいは, 事実ではないがそうだと仮に考えるのか, という認め方, 判断の仕方の違いでもある。そのために, これらの解釈

は難しいものがあるが、本稿では上記の表のように構文や主語という統語的な違いや主語の特性といった意味的な違いを合わせて、両者の違いを考察した。そして、Bのない文が「引用」の「とする」である。

さらに主語という点では、Aの存在の必要性、そしてその明示と非明示が問題となる。さらに、意味の核心である「B=C」の具体的解釈の要因はBとCの意味関係、変化前の想定の可否、加えてAの関与という総合的な関係性によって最終的に決まってくる。

このことは、畢竟するところ「する」が形式動詞であること、またもっぱら具体的な意味を連語の各要素（名詞、格助詞）に委ね、述語としてのまとめを引き受けるという特質による。つまり、格助詞一つの違いで幅広い用法の広がりを示すに至っている。また、その広がりには、5.1で述べたように「NヲNト／ニする」という他動詞構造を取りながら他動性が認められず「NガNである」と同様の意味を示す状態性を示す動詞になっている場合すらあった。以上の詳細なまとめは各表のとおりである。

このほか、両者の構文の分類と主語の有無についての考察は別稿で述べることにしたい。

注

- 1) Nは名詞、Vは動詞、Sは文を表す。
- 2) 例文中の（ ）は想定される主語を示す。
- 3) 日付は出典のYOMIURI ONLINEの記事の日付を表す。
- 4) 「とする」「にする」の主体の違いについては別稿（2013）を参照。
- 5) 実例、引用例の場合は | | の先に提示される方が元の例であり、後の方が加えたものである。例えば「娘を教師 |に／*と| する」では元の例は「娘を教師にする」であり、「と」は比較のために加えたもの。

参考文献

- 岩男考哲（2007）「『とする』構文についての覚書」『日本語・日本文化』33号、p 1-p15、大阪外国語大学日本語日本文化教育センター
- 金子弘（1986）「格助詞『に』の用法分類」『文藝研究』113巻、p61-p71、日本文藝研究会
- 菊池律之（2008）「変化動詞文と共起するニ・トに関する一考察——トの意味・機能の分析を中心に——」『日本語文法』8巻2号、p88-p103、日本語文法学会
- 小泉保・船城道雄・本田晶次・仁田義雄・塚本秀樹編『日本語基本動詞辞典』1989年、大修館書店
- 中山英治（2000）「仮定的な事態をさしだす『～とする』とその周辺」『人間化学研究集録』

p21-p31. 大阪府立大学大学院人間文化学研究所：総合科学研究科編

蓮沼昭子 (1985) 『「ナラ」と「トスレバ」』 『日本語教育』 56号, p65-p78, 日本語教育学会

益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法—改訂版—』 くろしお出版

藤田保幸 (2001) 「引用形式『～トスル』の表現性—『当局は、早急に調査するとしている』
などの表現について—」 『国語語彙史の研究』 20, p271-p285

前田直子 (2002) 「否定的状態への変化を表す動詞変化構文について—ないようにする・なくする・ないようにする・なくなる—」 『東京大学留学生センター紀要』 第12号,
p1-p19, 東京大学留学生センター

森田良行 (1980) 『基礎日本語2』 角川書店

用例出典

『新潮文庫 100冊』 三浦綾子「塩狩峠」、三浦哲郎「驢馬」、三木清「人生論ノート」、藤原正彦「若き数学者」、宮澤賢治「双子の星」、吉村昭「戦艦武蔵」、司馬遼太郎「国盗り物語」、阿川弘之「山本五十六」、開高健「パニック」、新田次郎「孤高の人」、宮澤賢治「セロ弾きのゴーシュ」、井上ひさし「ブンとフン」、北杜夫「楡家の人びと」、吉行淳之介「砂上の植物群」、渡辺淳一「花埋み」、野坂昭如「焼土層」「火垂るの墓」、梶井基次郎「のんきな患者」。村上春樹『1Q84 BOOK1』 2009年新潮社

YOMIURI ONLINE <http://www.yomiuri.co.jp/>

(おおつか・のぞみ, 本学准教授)